

地域との連携によるエゾシカ捕獲

網走中部森林管理署

【はじめに】

当署の管理区域は、大雪山系の武華山を源とする無加川流域、三国山を源とする常呂川流域、北見市留辺蘂町丸山地区を源とする佐呂間別川流域となっており、北見市、佐呂間町、置戸町にまたがる国有林を管轄しています。

管内にはエゾシカが多く生息しており、稚幼樹の食害や樹皮剥ぎ、農作物の食害などの被害が顕著で、更には交通事故の危険もあり、対策の必要性が高まっています。



樹皮剥ぎの被害を受けた樹木

【地元自治体との連携】

当署では毎年、北見市と協定を結び、エゾシカ捕獲連携事業を実施しています。役割分担として、



給餌によって誘因されたエゾシカのイメージ

除雪を行う林道付近に給餌によりエゾシカを集めることで、効率的な捕獲を図ります。

当署が林道の除雪と給餌を担当し、北見市が捕獲と搬出を担当し、給餌や捕獲等の実務は地元猟友会が行っています。

【地元振興局との連携】

オホーツク総合振興局では、令和4年度からエゾシカ捕獲困難地対策事業として北見市常呂町と佐呂間町の国有林で、くくりワナによる捕獲を、令和5年度からはエゾシカ指定管理鳥獣捕獲等事業として北見市常呂町と網走市美岬地区の国有林で、くくりワナによる捕獲や調査を実施しています。

場所選定や実施に当たっては、地元猟友会や森林管理署からのエゾシカの分布状況の情報の提供や、捕獲候補地の林道状況や森林整備事業の実施状況を踏まえ、捕獲場所の設定や捕獲と森林整備事業の実施期間の調整を行うなど、関係者と綿密な打ち合わせを行うことで、安全で効果的な捕獲事業が実施できるようにしています。また、狩猟に伴う事故の防止や給餌と捕獲を効果的なタイミングで実施することで捕獲の効率性を高めるため、捕獲事業地に一般狩猟者が立ち入らないよう、あらかじめ当署において銃猟立入禁止区域に指定するなどの連携も行っています。

【おわりに】

地域社会において、エゾシカ対策は大きな課題となっている中、捕獲事業で成果を上げるためには、様々な関係者間での連携が不可欠です。当署では、このように地元自治体や振興局はもとより、実際の捕獲に従事する猟友会とも綿密な打ち合わせを行っています。

こうした取組により、エゾシカ被害が減っていくことを目指し、引き続き地域の関係者との連携を続けてまいります。